

2021年8月20日

イノバセル株式会社との便失禁に対する 再生医療の国際共同治験計画に関するお知らせ

当社の100%子会社である株式会社IDファーマが治験国内管理人（In country Clinical Care-taker : ICCC）を務めるイノバセル株式会社の「ICEF15」について、日欧で国際共同第Ⅲ相試験を計画しており、日本でも医薬品医療機器総合機構との相談を開始いたします。

「ICEF15」は、切迫性便失禁を対象に自家骨格筋由来細胞を用いた細胞治療薬（再生医療）であり、高齢化に伴い増加する便失禁に対する根本的な治療法として開発が進められています。欧州では後期第Ⅱ相試験まで終了しており、国際共同第Ⅲ相試験では欧州10ヵ国で先行して治験が開始される予定です。

便失禁は成人のおよそ10%に発生している疾患です。切迫性失禁と漏出性失禁に区別され、切迫性便失禁では、外肛門括約筋が弱ったり、傷ついたりすることが原因となって発生することが多くあります。既存の治療では満足のいく治療効果が得られないことも多く、効果的で確実な治療法が求められています。

なお、IDファーマは、治験国内管理人と併せて国内におけるICEF15の製造も受託予定です。

イノバセルについて <https://innovacell.com/ja/>

イノバセルは便失禁と尿失禁の細胞治療薬の開発、生産、販売に特化したバイオテクノロジー企業で、骨格筋細胞の分離、培養、使用、配送に関する特許技術を開発しています。便失禁（切迫性失禁）を対象とした「ICEF15」のほか、腹圧性尿失禁の細胞治療薬「ICES13」や便失禁（漏出性失禁）の細胞治療薬「ICEF16」の開発を行っています。